

SPSE

Secure Print Solution with Ecology

印刷セキュリティソリューション
SPSE PRINT SCOPE
エスピーエスイー プリント スコープ

印刷量の可視化・MPS ソリューション
SPSE PRINT LOGGER
エスピーエスイー プリント ロガー

認証だけでは防げない
紙からの情報漏えい対策を
全ての管理者にお届けします。

総務省
採用製品



SPSE PRINT SCOPE

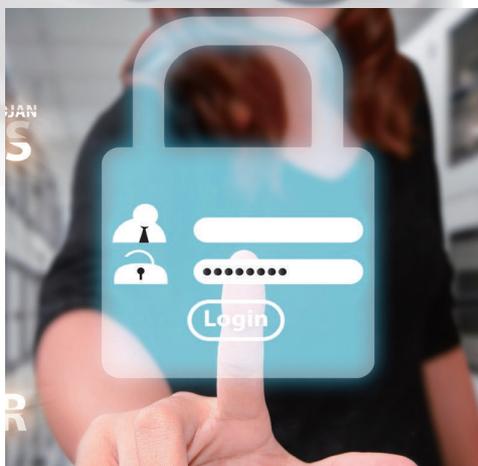
認証印刷と印刷内容の
把握を実現する
唯一のソリューション

- 本人認証のみのセキュリティでは不十分
- 印刷テキストログの取得で印刷の監査・追跡
- メーカー純正プリンタードライバー利用

SPSE PRINT LOGGER

印刷コスト削減の
第一歩は印刷量の
「見える化」から

- マルチベンダー対応、プリンター・複合機の印刷実行状態を完全に把握できるシステム
- だれが、いつ、どのようなファイルを、何部何枚、どのような印刷設定で実行したか？という実態を把握可能
- 管理者のオペレーションのみで、容易に導入が可能
- ユーザー、部門、印刷機、それぞれのカテゴリーで、印刷集計が可能



SPSE PRINT SCOPE

認証印刷と印刷内容の把握を実現する唯一のソリューション



印刷内容を把握し、検閲・監査が可能。 認証だけでは防げない紙からの情報漏えい 対策を全ての管理者にお届けします。

メーカー純正プリンタードライバーとMicrosoft Windows OS標準Standard TCP/IP Port Monitorを使用しながら、印刷物の内容をテキストと印刷イメージで管理できるソリューションです。

いまや紙文書の内容把握は、職員のメール送受信内容の監査と等しく、企業の信頼失墜を未然に防ぐための必須対策です。

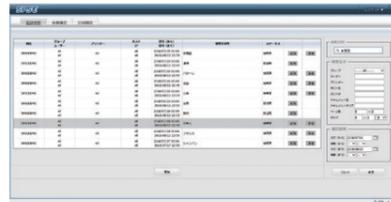
SPSE PRINT SCOPEは、官公庁やメガバンクをはじめとした金融業界、製造業やマイナンバーなどを扱う会計業などに多く御採用いただいております。

機器前認証による 印刷セキュリティでは不十分

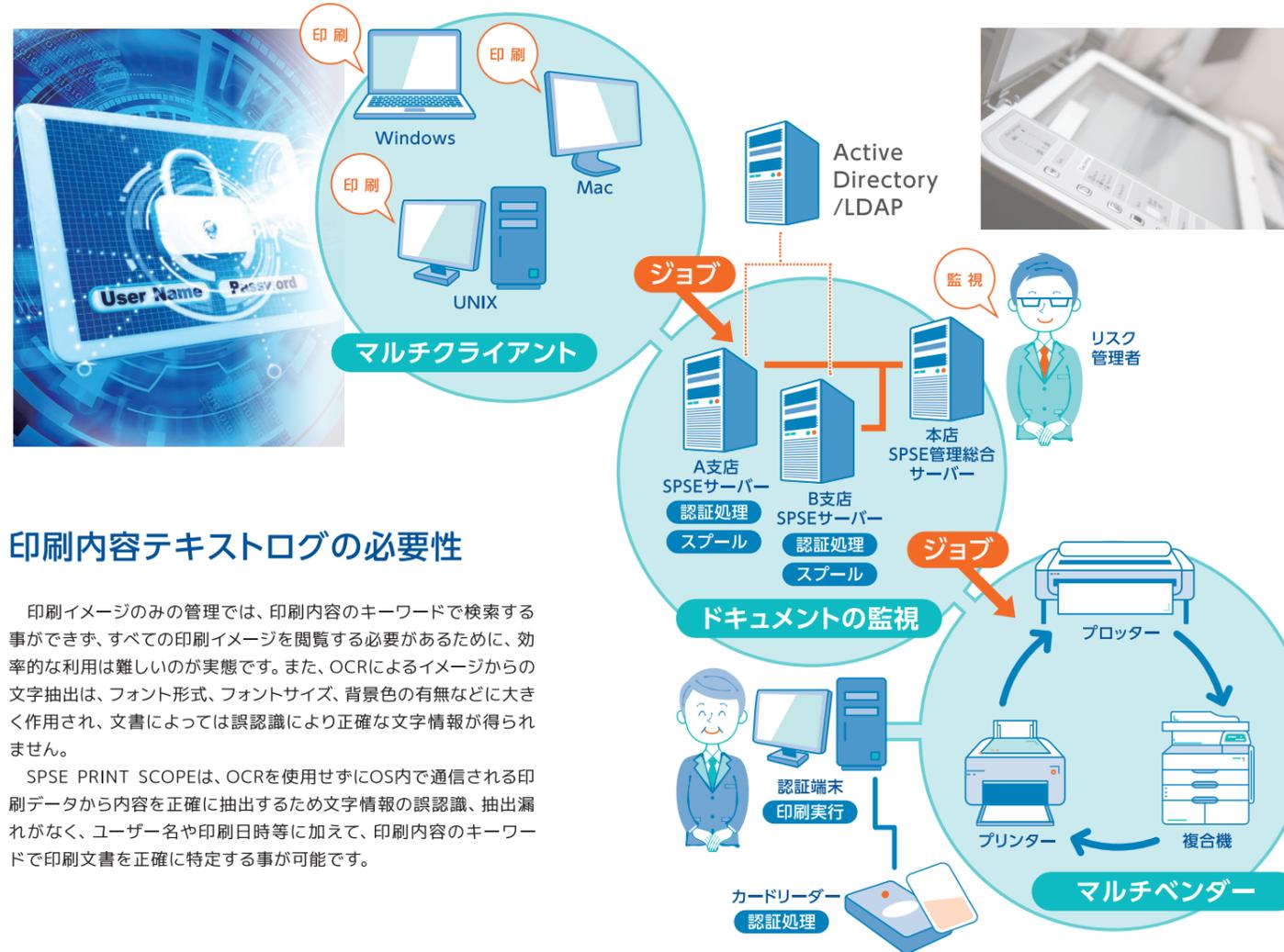
機器前認証による認証印刷では「置き忘れ」「紛失」等の事故は防げますが、悪意のある職員による印刷は防げません。

むしろ情報漏えいにつながる印刷を、他者に見られずに印刷できる機会を与えているかもしれません。

認証印刷と合わせて「印刷内容の把握」を行う事が、本物の印刷セキュリティとなり、企業にとっての生命線となってきております。



キーワードでの追跡結果



印刷内容テキストログの必要性

印刷イメージのみの管理では、印刷内容のキーワードで検索する事ができず、すべての印刷イメージを閲覧する必要があるために、効率的な利用は難しいのが実態です。また、OCRによるイメージからの文字抽出は、フォント形式、フォントサイズ、背景色の有無などに大きく作用され、文書によっては誤認識により正確な文字情報が得られません。

SPSE PRINT SCOPEは、OCRを使用せずにOS内で通信される印刷データから内容を正確に抽出するため文字情報の誤認識、抽出漏れがなく、ユーザー名や印刷日時等に加えて、印刷内容のキーワードで印刷文書を正確に特定する事が可能です。

導入のメリット

メーカー純正 プリンタードライバー対応

各社メーカー純正プリンタードライバーを使用しているため、現在ご利用の複合機、プリンターを入れ替える必要はありません。

また、印刷を実行するアプリケーションにも制限は発生いたしません。SPSE PRINT SCOPEの導入にあたり、オフィスの印刷環境を変更することなくご利用いただけます。

全職員の印刷内容を高速検索可能

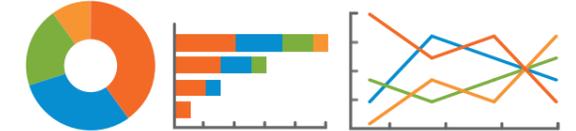
OCRを使用せずに印刷内容をテキストにて保持しており、さらに単語単位でインデックス化が自動で行われます。そのため「Aさんの1年間の印刷内容から、あるキーワードについて全検索」といった検索結果を即座に得られます。また、その文書の印刷イメージも即座に閲覧できます。



ヒットしたキーワードを赤文字で表示

印刷量の把握が可能

ユーザー単位でも所属部署単位でも、またプリンター単位でも日々の印刷枚数が把握でき、無駄なプリンターの把握や、減らない印刷量に対する対策が可能となります。



SPSE PRINT SCOPEの特徴

| | | | | | | | |
|--|---|---|--|--|--|--|---|
| <h3>メーカー純正 プリンタードライバー利用</h3> <p>メーカー純正プリンタードライバー利用なので、メーカーの高品質な印刷が損なわれることはありません。 また、印刷遅延、罫線抜け、文字化け、余白ずれなどの印刷事故も発生いたしません。</p> | <h3>OCRを利用せずに テキスト抽出</h3> <p>全職員の印刷内容を、OCRを利用せずにOSより抽出しますので、100%正確な文字抽出が可能です。 OCRのように文字形状や大きさに左右されず、また英語、中国語、イタリア語など、どの言語でも抽出が可能です。</p> | <h3>文書内容を瞬時に特定</h3> <p>抽出したテキストを単語単位でインデックス分解していますので、キーワードによる高速な検索が可能です。検索結果の印刷内容はテキスト文書と印刷イメージ (JPEG、PDF、etc) で内容確認ができ、全く同じ内容での再印刷が可能です。</p> | <h3>印刷強制停止、 印刷アラートメール対応</h3> <p>文書の一字一句を正確に取得できるため、事前に登録されている禁止キーワードに合致した内容を持つ印刷については、印刷を行わせない、印刷した事を管理者に通知する事が可能です。</p> | <h3>運用・管理機能</h3> <p>部門・ユーザー、およびプリンター・プリンターグループでの印刷統合管理が可能になります。ユーザーや部門による機能制限 (コピー禁止、カラー禁止) など運用も容易で効率化が可能です。また、ユーザー情報はActive DirectoryやLDAPとの連携が可能です。</p> | <h3>クライアント管理</h3> <p>SPSE PRINT SCOPEをインストールしているクライアントOS上に、どのようなプリンターが存在するのか等の情報管理、またそのプリンターを削除するなどの操作も可能です。またこれらの機能のアンインストールを禁止することも可能です。</p> | <h3>大規模運用実績</h3> <p>24時間365日の運用を余儀なくされる大規模な業務下で8年以上の連続稼働実績がございます。 SPSE PRINT SCOPEとの通信ができない場合、ダイレクト印刷に自動切替えし、復旧後にクライアントの印刷ログが転送されます。</p> | <h3>仮想環境・VDI環境対応</h3> <p>SPSE PRINT SCOPEサーバーは、各社の仮想OS環境においても、豊富な運用実績があります。SBC、VDI方式などお客様の環境に合わせて、仮想環境におけるネットワークの帯域を考慮した最適なシステム構成をご提案いたします。</p> |
|--|---|---|--|--|--|--|---|

SPSE PRINT SCOPE

認証印刷と印刷内容の把握を実現する唯一のソリューション

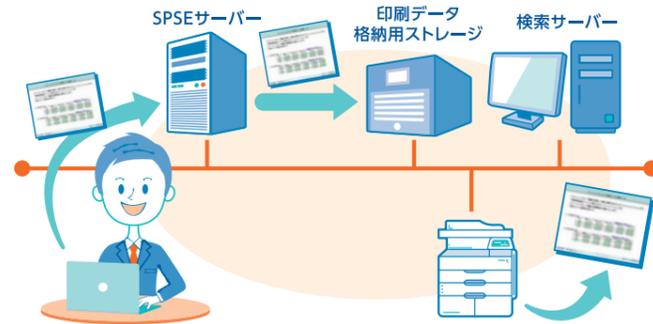


代表的な機能

印刷内容テキストログ抽出機能

印刷内容そのものをアプリケーションに依存する事なく、全文抽出が可能です。印刷禁止キーワードをあらかじめ設定すれば、キーワードが含まれる文書の印刷を停止するなどの事が可能です。

OCRを使用せず、アプリケーションの
使用している文字を正確に抽出



印刷内容イメージログ保存機能

JPEG PDF etc...

印刷データを画像形式で保存する機能です。印刷結果を視覚的に閲覧が可能で、テキストデータだけでは判断のしづらい印刷物全体の内容が確認できます。

WEB画面上で印刷イメージを
確認可能！

印刷済のデータの中身を任意の
キーワードで検索、追跡が可能！

印刷済のデータ(テキスト、イメージ)
の完全な保管が可能！

検索した印刷ジョブの
再印刷が可能

トナーセーブ機能

ユーザー、プリンターごとに印刷濃度を変更可能です。

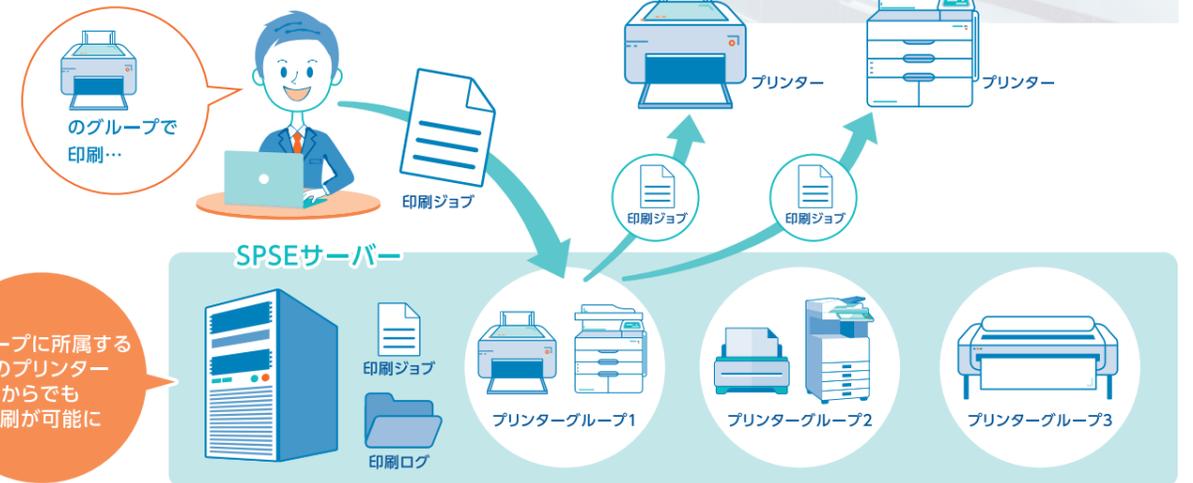
テキスト文字のみ、イメージのみに濃度設定を行う事や、特定FONTや指定POINT以下のテキストは対象外とするなど、細かい設定が可能です。



どこでも印刷機能 (印刷オプション引き継ぎ機能あり)

プリンタードライバーの種類を気にすることなく、プリンターグループを設定できる機能です。プリンターグループとユーザーグループの関係はそのままなので、送信したジョブをどこでも印刷できるようになります。

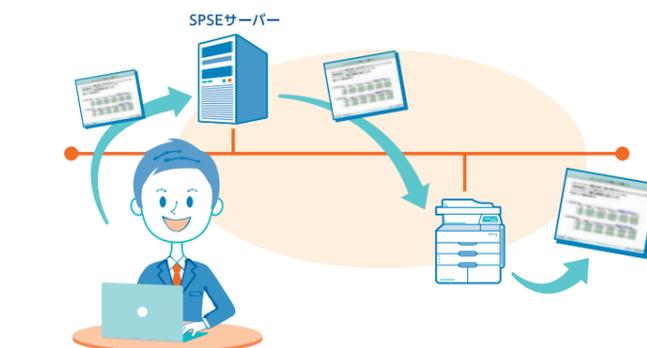
プリンターが混雑していたので別のプリンターで印刷……など、ユーザーの選択肢が増えることで印刷の作業効率が大幅に増加します。



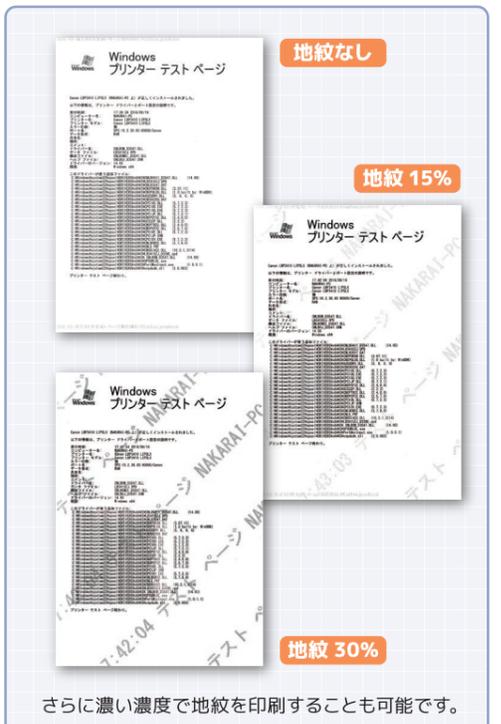
本機能はメーカー純正プリンタードライバーを利用しながら、他メーカー印刷機器への印刷を実現する機能です。従いまして、印刷結果が若干異なる場合がございます。

地紋印刷機能 (ヘッダー、フッター、背景)

メーカー純正プリンタードライバーを使用しながら利用可能。PDF組み込みフォントなどがあっても、文字化け等の弊害は一切ございません。ユーザー名、日時などを強制的に加えての印刷が可能なので、不正な印刷を抑止する効果が得られます。例えば、会議室などに放置された印刷物の所有者も判別可能となります。



ヘッダー、フッター、背景共に下記の項目が選択可能です。
コンピューター名、ユーザー名、ユーザーID、文書名、印刷日時



さらに濃い濃度で地紋を印刷することも可能です。

SPSE PRINT SCOPE

印刷環境を効率化する様々な機能を持つ唯一のソリューション



オプション機能

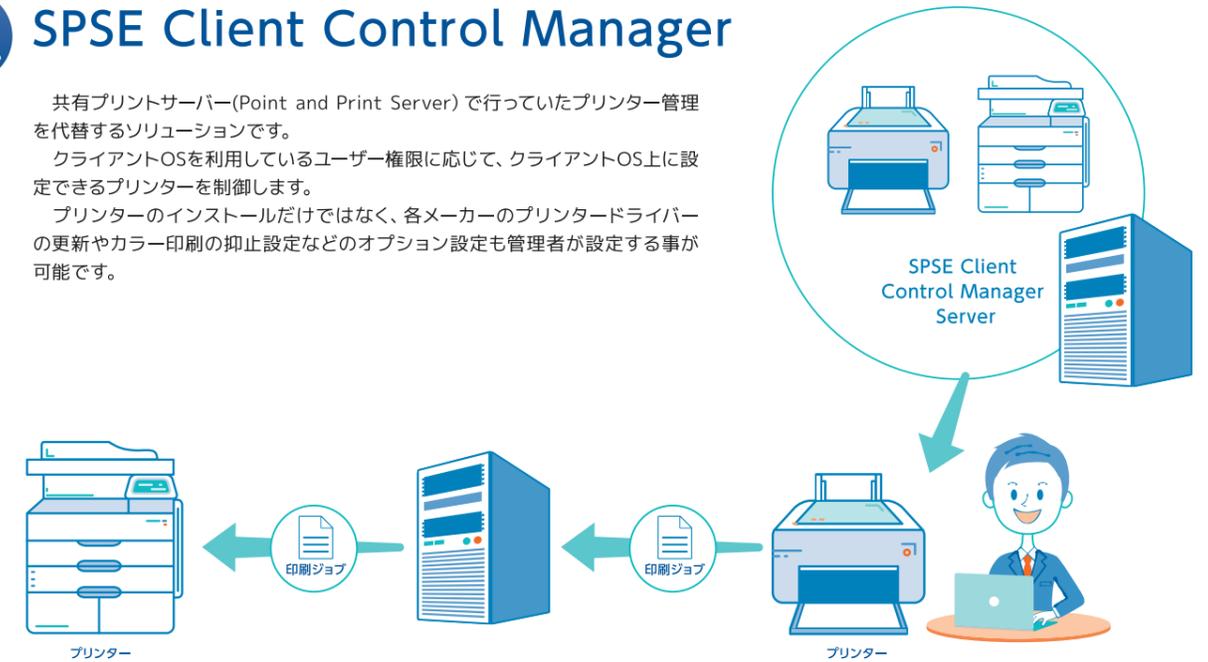
印刷理由入力機能

テレワークなどの社外勤務において、利用者が印刷する際、その印刷理由をプルダウンから選択、または入力する事が可能です。
管理者は、利用者に「印刷している内容は常に組織の重要文書として扱う」といった意識を持たせ、情報漏えいの抑止に役立てる事が可能です。



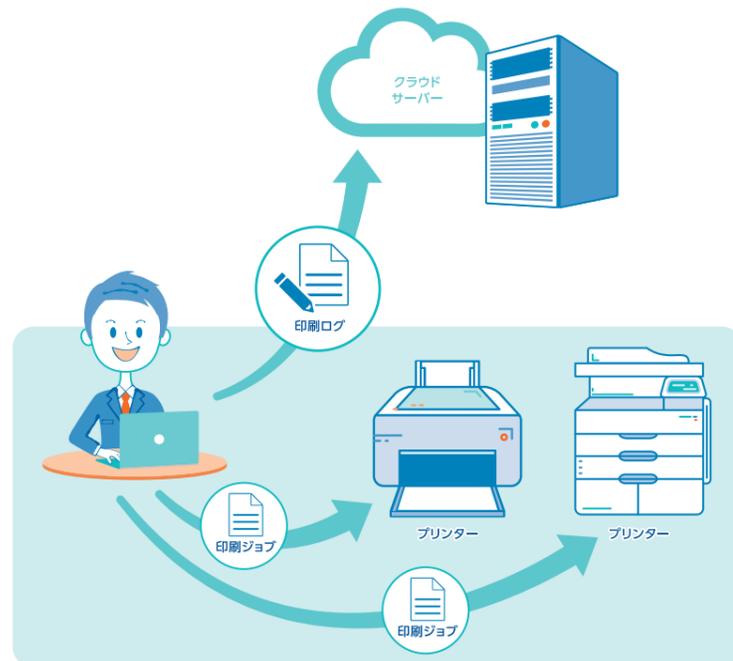
SPSE Client Control Manager

共有プリントサーバー(Point and Print Server)で行っていたプリンター管理を代替するソリューションです。
クライアントOSを利用しているユーザー権限に応じて、クライアントOS上に設定できるプリンターを制御します。
プリンターのインストールだけではなく、各メーカーのプリンタードライバーの更新やカラー印刷の抑止設定などのオプション設定も管理者が設定する事が可能です。



ログのみ印刷クラウド管理機能

テレワークなど社外勤務環境から印刷を行った際に、印刷の内容ログをクラウド上に構築したSPSE PRINT SCOPEサーバーにアップロードする事が可能です。



印刷状況把握機能

印刷におけるトナーおよび紙の使用量を、印刷削減量との対比にて、算出とグラフ化を行います。
両面、集約、カラートナーセーブ量などを、先月、昨年同月などで比較する事が容易になり、組織のCO2オフセット活動にご利用いただけます。
また、複合機連携（オプション）により複合機の利用履歴（コピー、プリント、スキャン、FAX等）を取得し、コピーなどを含めた紙使用量算出とグラフ化も行えます。
両面印刷、割付印刷などを活用することにより、前月、昨年との比較をすることが容易となり、紙の削減や印刷量の削減の活動成果が一目で評価できます。



部門・ユーザーごとの集計の情報

- 1 全体の印刷量
- 2 カラー・モノクロの比率
- 3 片面・両面の比率
- 4 割付印刷の比率
(2in1, 4in1, 6in1 以上)
- 5 用紙サイズによる比率
- 6 アプリケーション別の比率

印刷集計機能

SPSE PRINT SCOPE経由の印刷を、自動的に部門単位、ユーザー単位で集計し、CSVフォーマット形式でファイル出力が可能です。
印刷状況把握機能と合わせ、どの部門がどのくらいの印刷量を定量的に行っているか、その内訳の把握が可能となります。
また、複合機連携（オプション）により複合機の利用履歴（コピー、プリント、FAX出力）を取得し、部門単位、ユーザー単位で印刷量と印刷コストの算出結果のExcel出力が行えます。
複合機のページ単価は、機械ごと、用紙サイズ別、モノクロ/カラー別に管理ツールより登録することができ、正確な集計が可能です。

SPSE PRINT SCOPE

複合機連携機能



複合機との 連携

複合機スキャン連携機能

SPSE APT SCANは、複合機のスキャン機能の全てを、組織内の管理者にて制御可能とするスキャンソリューションです。

管理者は、組織内で利用するべきではない機能を制限する事ができ、複合機のSCAN機能による外部への情報漏えい対策としてご利用いただけます。また、利用者は異なるメーカーや、同一メーカーの異なる世代による、異なったスキャン画面構成を、自分の好みの設定で利用する事が可能です。

SPSE APT SCANサーバーは、各複合機からの全スキャンデータを管理し、E-mailや指定フォルダーへの自動転送や、指定時間経過後のファイル削除などが行え、その全てはシステム内にログとして保存されます。

複合機スキャン連携機能は、利用者のコピーからスキャンへの操作を容易にする機能で、紙文書の電子化活動、印刷量の削減に寄与します。電子化された紙文書は情報共有も容易なものとし、スキャンによるワークフローの定着により業務効率の改善も図ることができます。



スキャン実行画面



スキャンデータダウンロード画面

複合機パネル連携機能

各メーカー純正RFIDカードリーダーなどを用いた認証機能と連携し、SPSE PRINT SCOPEで管理する印刷ジョブの連携をもとより、コピー制御、ファックス制御、スキャン制御を可能とします。

複合機パネル上に表示される印刷ジョブの部数や各種設定を変更し、印刷する事が可能となります。



指定時間以内に印刷が行われなかった印刷ジョブ、ミスで印刷指示したジョブのキャンセルが行え、無駄な印刷を無くせます。



部数変更印刷機能

クライアントPCから、印刷を送信した後も、複合機上で印刷実行を行う前に、部数、ステープル、パンチ、両面・片面などの設定を変更して出力する事が可能です。

すでに印刷ジョブを送信してしまった後からでも、印刷する前に部数を変更して出力する事が可能です。もちろんキャンセルも可能ですので印刷ミスの低減に効果があります。

※複合機連携時または認証端末設置時に可能な機能です。

SPSE PRINT SCOPE

認証印刷と印刷内容の把握を実現する唯一のソリューション



導入事例

他にも様々な機能を実装しています。



多言語対応

SPSE PRINT SCOPEはマルチ言語対応です。
管理ツール類の言語切り替えはもちろん、日本語以外のOSからの印刷においても印刷内容の文字抽出が可能です。
・日本語 ・英語 ・中国語 ・韓国語 など



Active Directory ユーザー連携機能

Active Directory (AD) からユーザーを一括登録できます。AD各項目をユーザーデータの項目に自由に割り振れます。既存のシステム・データと連携した素早いユーザー登録が可能です。



印刷スケジュール機能 (時間外印刷の禁止等)

ユーザーグループ、または印刷機器ごとに、印刷可能なスケジュールを設定することができます。通常勤務時間外は印刷禁止とするなど、セキュリティの向上にお役立ていただける機能です。



カーボンオフセット機能

SPSE PRINT SCOPEに印刷命令を行った印刷ジョブの実印刷（紙出力）が、行われなかった場合には、不要印刷の削減として換算します。
また、先月比較、前年同月比較など、ユーザー単位、部署単位での印刷量比較が可能です。



PDFデジタル署名機能

電子帳簿保存法の改正に伴う、書類のデジタル化に対応可能です。
スキャンまたは印刷時に、外部タイムサーバー連携または、独自の証明書によるデジタル署名付きのPDFを作成可能です。



サイレントインストール機能

クライアントPCへのモジュールインストールは、全てサイレントインストール機能を持ち、ログオンク립トまたは資産管理ソフトウェアによる配信によるインストールが可能です。



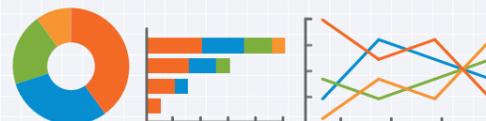
負荷分散機能 (複数台のSPSEにハードウェアLB無しで対応)

サーバーを2台以上設置しておき、切り替えを行って運用できます。
各クライアントPCの印刷データ送信先サーバー切り替えの設定は、Port Monitorの設定で容易に可能です。



印刷環境可視化機能

SPSE PRINT SCOPEにもPRINT LOGGER 同様の印刷環境を可視化する機能を追加することができます。
印刷機器ごとの印刷量や内訳の集計、稼働率の把握と部門・ユーザーごとの印刷量の集計が可能です。



NTT docomo 現: エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社

ドコモグループ5万人の業務を10年以上に渡り支え続けているドコモ・システムズ社製品「dDREAMS」。
SPSE PRINT SCOPEは、同サービスに採用されている製品です。

dDREAMSのお問い合わせ先: <https://www.nttcom.co.jp/dscb/ddreams/>

利用者数
22万人

dDREAMS
クラウド型企業情報システム

dDREAMSで 最高の安心を手に入れる

セキュリティ



働き方改革



快適性

SPSE 導入企業

大規模企業における、24時間365日の運用

- ・メガバンク
- ・クレジットカード会社
- ・地方銀行
- ・自動車 / 自動二輪会社
- ・建設会社
- ・電鉄会社
- ・大手証券
- ・投資会社
- ・電話会社
- ・自動車設計会社
- ・製薬会社
- ・バス会社
- ・ファイナンス会社
- ・信託銀行
- ・携帯通信会社
- ・製紙会社
- ・金属製造会社
- ・運送会社

SPSE PRINT LOGGER

印刷量の可視化・MPSソリューション



印刷コスト削減の第一歩は、印刷コストの「見える化」から

SPSE PRINT LOGGERは、メーカー純正プリンタードライバー、Microsoft Windows OS純正 Standard TCP/IP Port Monitorを使用しながら、印刷物の内容をテキストとイメージで抽出可能とした印刷ソリューション SPSE PRINT SCOPEの印刷ログ機能と、MPS (Managed Print Service) 機能に特化したソリューションです。

オフィスの印刷環境の整備はITインフラのなかで最も遅れていると言っても過言ではありません。それにも関わらず、オフィス文書の印刷量は決して減少傾向にはなっていません。そして、もう一つ忘れてはならないのが、紙からの情報漏えいによるセキュリティリスクです。

市町村の事務職員数は、人口の0.9%前後が平均的です。仮に人口60万人の自治体を例にすると、職員数は約6000人、年間の内部情報文書の印刷量は約1億枚にのぼります。そして、1億枚の印刷にかかるコストは、年間3~4億円にもなります。

環境活動や印刷の削減、改善活動の定着を実現すると同時に、出力機器のセキュリティホール の抑止につなげるためには、印刷実行ログを並行して取得することが最善と言えます。

一般にMPSは、印刷業務に関わるあらゆるコストを低減することを目的とした、新しい運用アウトソーシングのことを指すことが通常ですが、実際のMPSの多くは、要約すると、出力機器の台数集約と基幹出力のアウトソースになっており、オフィス文書の印刷そのものを減らすところまでは至っていません。

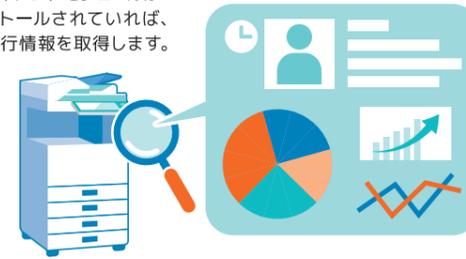
日本テクノ・ラボが考えるMPSとは、導入企業・自治体と一緒に印刷習慣の改善を行い、印刷環境の改善とともに、セキュリティを高めて印刷量を削減することにあります。

SPSE PRINT LOGGERは、高い精度の印刷ログにより印刷の実行状況を把握し、部門ごとの印刷量を可視化、印刷ポリシーの制定、中期で8~10%の削減目標値の設定、印刷を減らすワークスタイルの提案や情報のライフサイクルを考えた印刷習慣など、職員自らが実行し定着する活動を支援いたします。

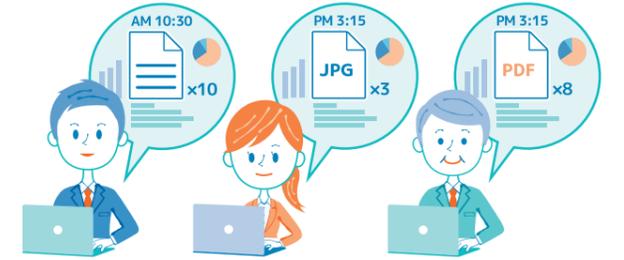


マルチベンダー対応のプリンター・複合機 (MFP) の印刷実行状態を(個人ごと)把握するシステムです。

クライアントモジュールがインストールされていれば、印刷実行情報を取得します。



だれが、いつ、どんなファイルを、何枚、どんな印刷設定で実行されたか?の実態を把握するツールです。

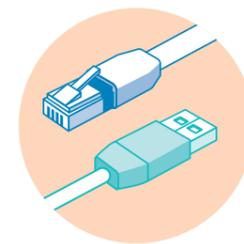


管理者のオペレーションのみで容易に導入することが可能です。

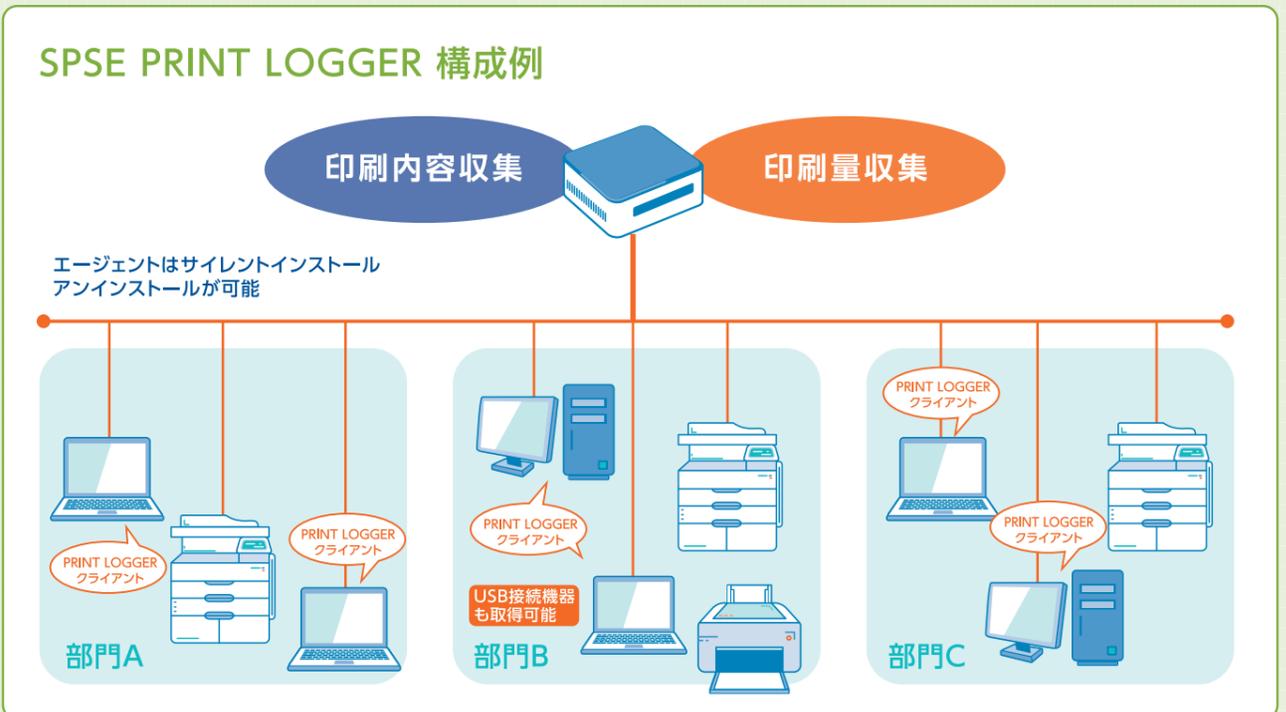
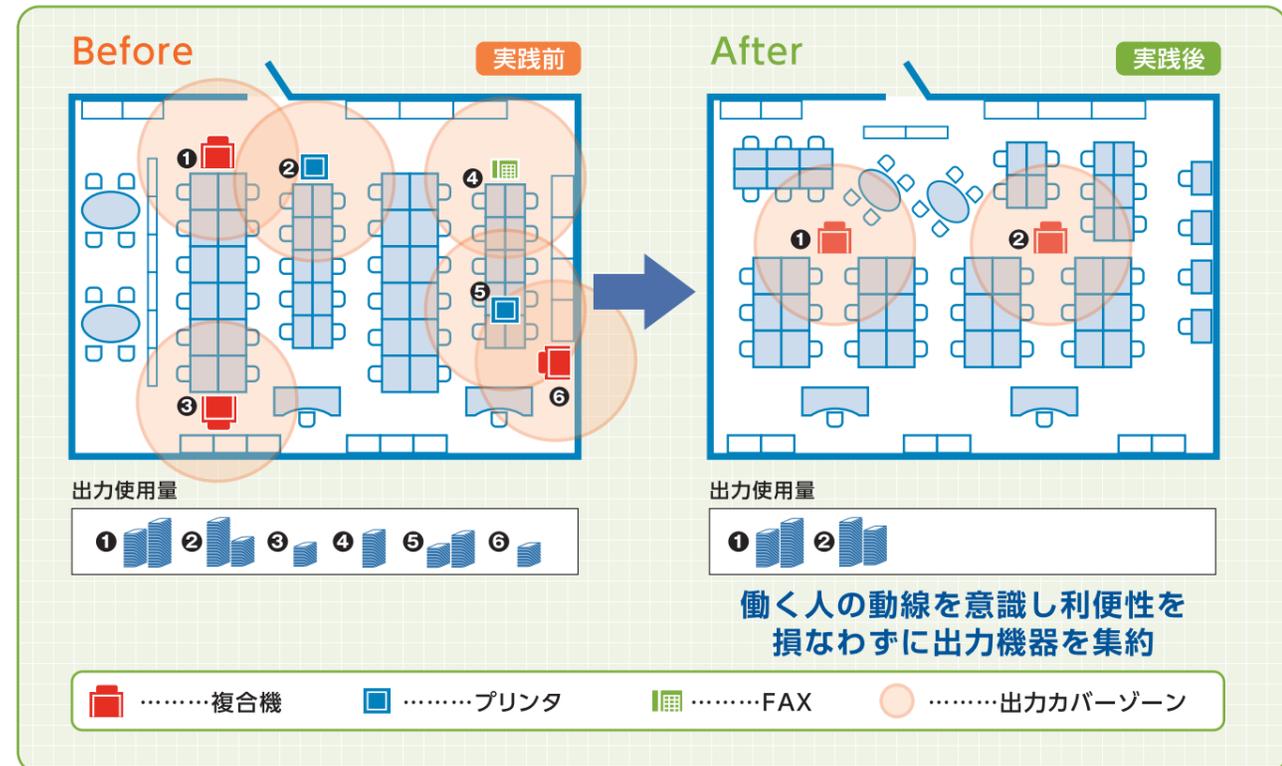
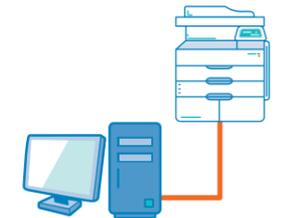
各クライアントにクライアントモジュールが配信され、サイレントインストール可能なプログラムを提供します。



USB接続の機器も取得できます。



ローカル接続の場合でも印刷ログを逃がしません。



SPSE PRINT LOGGER

印刷量の可視化・MPSソリューション

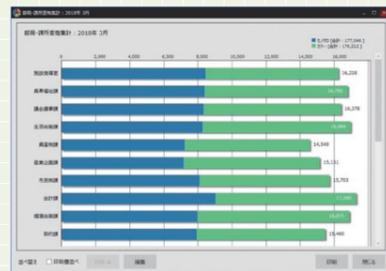


導入事例

オフィスにおける印刷機器の運用状態を見える化し、印刷機器に係るコストのシェイプアップを支援する

PRINT LOGGER の様々なグラフ機能！

部門ごとの印刷量の集計
全体の集計から、部局・課所室ごと、ユーザー単位の集計まで、印刷量を詳細にグラフ化します。



ユーザー詳細集計
ユーザーごとの詳細集計によって、どのユーザーがどれだけの印刷を行っているかの把握が容易になります。

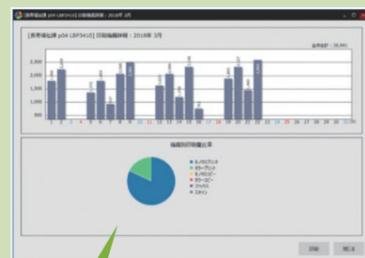
部門・ユーザーごとの集計の情報



印刷機器ごとの集計
印刷機器全体の出力数の集計から、印刷機器ごとの出力数の集計、および機器の稼働率まで、詳細にグラフ化します。



印刷機器ごとの集計の情報



- 全体の出力数
- カラー印刷の出力数
- カラーコピーの出力数
- スキャンの出力数
- モノクロ印刷の出力数
- モノクロコピーの出力数
- ファックスの出力数

グラフの表示期間
月ごと、日ごと、1日における時間ごとの印刷量が一目でわかります。

印刷機器の稼働率を見える化

環境省は、オフィスにおけるコピー機およびプリンタ等の印刷機器の適切な稼働率を、概ね3%~7%と定めています。

稼働率3%以下の機器 → 他の機器との統合を検討

稼働率7%を超える機器 → 高速機への入れ替えや機器の追加を検討

PRINT LOGGERの「印刷機器稼働率グラフ」では、オフィス内のすべての印刷機器の稼働率をグラフ化します。最適な稼働率の機器は青のグラフで、範囲外の機器は赤のグラフで表示されますので、どの機器が検討対象であるかひと目でわかります。



地方自治体での導入事例 「印刷環境を可視化して台数・印刷コストを大幅削減」



背景
印刷実態を可視化して最適化をしたい

翌年度にプリンター、翌々年度に複合機をリプレイスする計画があり、従来の調達の方針、つまり同様スペックの機器を同一台数リプレイスすることを全面的に見直し、この機会に導入、運用コストを大幅に削減したい。現状、複合機以外に各課に1台あるプリンターの設置が本当に必要なか?などの疑問があった。

印刷実態を可視化するために日本テクノ・ラボ製のSPSE PRINT LOGGERを導入、まずは紙の使用量を減らすのではなく、印刷機器の種類、台数、設置場所を全面的に最適化し、全体コスト削減を目標とした。その点、SPSE PRINT LOGGERは機器ごとの稼働率を始め、多くの印刷実態データが一目瞭然に把握できるため最適なツールである。

経緯
印刷量だけでなく機器の稼働率も可視化

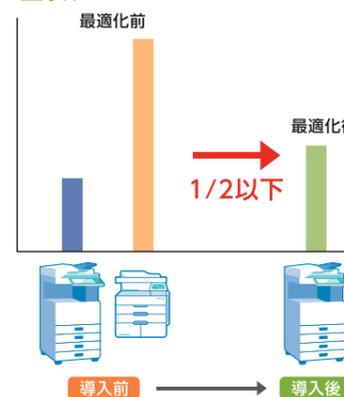
プリンターや複合機の最適化には、印刷量のみでなくいくつかの定量的な指標が必要となる。最適化での最も重要な指標としては、印刷量と印刷の能力の関係=稼働率の把握であり、SPSE PRINT LOGGERにはこれが自動で可視化できる機能がある。

また、単位時間あたりの印刷量の把握により、平均印刷量のみではなく印刷のピークを知ることができるため機種選定において有効な指標となる。50台以上あるプリンターの殆どが稼働率3%未満であり、大幅な集約が可能であることが判明。さらに、日本テクノ・ラボから最適化の支援を受け、機種選定、台数、配置に至るまで、根拠のあるリプレイス計画ができたことが大きな成果となった。

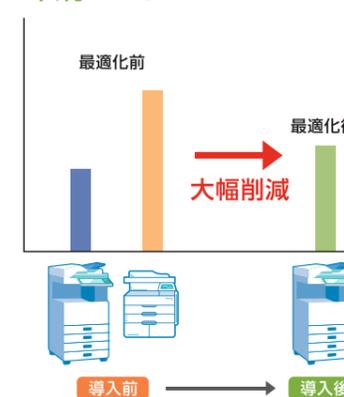
効果
トータル印刷コスト削減が実現、同時に印刷セキュリティーも強化

稼働率の低い50台以上のプリンターのリプレイス調達を全面中止し、また稼働率に余力のある複合機に印刷量を集約、各フロアに2~3台あれば十分であることが判明。複合機の配置レイアウトも印刷量と動線距離の関係性を平準化した。また、台数の大幅削減の課題である印刷待ちを解決するため、認証印刷によるどこでも印刷機能を導入し、印刷環境を快適なものとした。ランニングコストの面では、これまで把握できていなかったプリンターが予想以上に高いことが判明、複合機に代替したことで大幅なコストダウンが図れた。今回の見直しにより、台数は半分以下、同時に印刷セキュリティーの強化と印刷量の抑止効果が期待できることは成果として大きい。

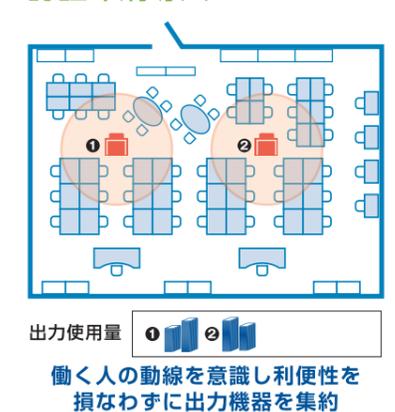
台数



印刷コスト



認証印刷導入



SPSE PRINT LOGGERは多くの地方自治体に豊富な導入実績がございます。印刷コストダウン対策はおまかせ下さい。

RFID CARD READER(ネットワーク型マルチカードリーダー)

LAN接続 ICカード・リーダー LAN connection IC card reader

「NTL RFID Card Reader」は、Ethernet (10BASE-T/100BASE-TX) 上に接続可能な「FeliCa」及び「MIFARE」技術に対応した各種カード、機器に対応するリーダーです。Ethernetに接続可能なため、USBのインターフェースを持たないPCやシステムが混在する環境で使用できます。



用途

NTLカードリーダーは FeliCa/MIFARE共用 (ディップスイッチ切り替えなし) とFeliCa/SSFC選択 (ディップスイッチ切り替え要) の2種類です。

特徴

| | | |
|-------------------------------|------------------------------|--|
| FeliCa, FeliCa SSFC 共用リーダー | FeliCa IDm, MIFARE 共用リーダー | Ethernet (10BASE-T/100BASE-TX) に対応 |
| 非接触で 対カード通信距離は 10mm | 持ち運びが容易な コンパクトサイズ | 大幅な コストパフォーマンス を実現 |



SPSE PRINT SCOPE 動作環境

SPSEサーバー

対応OS Windows Server 2019
Windows Server 2022
※ご要件によりご提案いたします。

必要性能 CPU : Intel Xeon Quad Core以上
RAM : 16GByte以上※
HDD : ※

クライアントPC

対応OS Windows 10以降 32bit / 64bit、
MacOS、Linux各種、
他OSはご相談ください。

必要性能 OSが快適に動作する性能
シンクライアント、仮想環境での動作可能

○Microsoft、Windows、Excelは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。○FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。○MIFAREはフィリップス社（現NPXセミコンダクターズ社）の登録商標です。○ELWISEはNTTカードソリューションズ株式会社の登録商標です。○SSFCは大日本印刷株式会社の登録商標です。○SPSEは日本テクノラボ株式会社の登録商標です。また、これらの仕様および内容は予告なく変更される場合があります。(2018年7月作成) ○その他の社名、商品名等は、それぞれの各社の商標、または登録商標です。(2018年7月作成)

■ お問い合わせ先



Nippon Techno Lab Inc.

日本テクノ・ラボ株式会社

〒220-6211 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-5
クイーンズタワーC 11F

問い合わせ：TEL 045-263-8546

FAX 045-263-8549

URL: <https://www.ntl.co.jp> E-mail: sales@ntl.co.jp